

南海トラフの地震活動の長期評価改訂について

○令和 7 年 9 月 26 日、政府の地震調査委員会から、
隆起量データ（室津港・高知県）に不確実性（誤差）があるとの新たな知見を踏まえ、
南海トラフ巨大地震の今後 30 年以内の発生確率（令和 7 年 1 月 1 日時点）について、
「60 %～90 %程度以上」と示されました。

⇒ すべり量依存 BPT モデル（今後 30 年以内の発生確率 60 %～90 %程度以上）

○地震発生履歴のみを考慮した「BPT モデル」も提示（ // 20 %～50 %）

	計算モデル	使用データ	相対的評価	今後 30 年以内 の発生確率
見直し前	—	隆起量データ 地震発生履歴	Ⅲランク	80 %程度
見直し後	すべり量依存 BPT モデル	隆起量データ 地震発生履歴	Ⅲランク	60 %～90 %程度以上
	BPT モデル	地震発生履歴	Ⅲランク	20 %～50 %

※ 30 年以内の発生確率が 26 % 以上の場合、最も高い「Ⅲランク」

